

こんな時だからこそ、お寺をみんなの『心の拠り所』に。

光源寺  
うみたに  
海谷 真貴子さん



GoON!



ぐるぐる海友舎プロジェクト  
南川智子さん

# ETAJIMA GoON! Vol.6

夫婦で  
目指す  
『また来たい』  
と思える  
ふるさと『  
のようなお寺



Vol.6  
能美町・高田  
こうげんじ  
光源寺  
うみたに  
海谷 真貴子

たら嬉しいねと、住イベントに詳しい方々を中心に実行委員会を立ち上げ、手探りで始めました。島のみなさんが作る手づくり品や特産品、花や野菜：たくさん手づくり品が集まる境内が、その日限定で小さな市場となる。手作り市は、訪れた人たちがお寺という空間に触れながら、思い思いの時間を過ごすことができ、高田地区の風物詩とも言える催し物となった。

現在はコロナ禍における2度の中止・延期を経て第17回開催を控え、状態が止まっている。「手づくり市は、楽しいことはもちろん、ただ賑やかに！というものではなく、お寺という空間にゆとり浸ってほしい」という思いで開催しています。例えば出店以外にも、寺子屋劇団による子どもたちの公演、音楽ライブ、お茶席、モノづくりのワークショップなど、手作り市で縁を感じながら、ほっこり過ごしてほしいと思っています。

島内外の人びとから愛されている手づくり市。「今はできなくても、思いはこのまま。これからも長く開催できるといいなあ」と微笑む真貴子さんの温かい人柄も、手づくり市の魅力のひとつなのだろう。

手づくり市の他にも、光源寺ではさまざまな試みをしている。ある時はお寺がヨガ教室に、ある時は小さな映画館に、ある時は子どもたちの集う場に：足を運んでもらうきっかけづくりを夫婦で一緒に考え、実行している。「200年以上大切に受け継がれてきたこの本堂をお預かりするのが私たちの役目です。仏事を通して仏さまの教えに触れていただくことが中心だけど、気軽にお寺を訪れ、みんなで一緒に笑える空間にしたい。こんな時だからこそ、それぞれの『心の拠り所』になれば」と話す真貴子さん。

「仏事だけだと敷居が高く感じる人もいるかもしれないですが、大人の寺子屋といった形で、個々に感じるものがあれば良いですよ。」コロナ禍にあっても変わりなくお参りくださる方、別れを通してお参りになられる方、新しく足を運んでくれる方、それぞれの『心の拠り所』として光源寺は在り続ける。

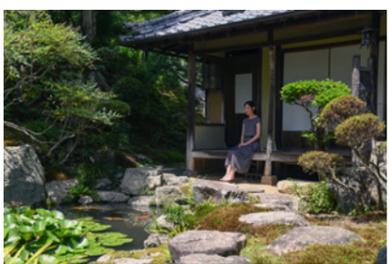
9月からはヨガや映画に加え、書道教室など、お寺でゆとり出れる時間を増やしていく予定だという。「もちろん、ご法座に来られる方にもゆとりして頂きたいという思いが前提にあります。だから、ご法座も精進料理のお昼ご飯を皆さんと一緒に：という形に変えたいです。その方が、たくさんの人とゆとりとした時間が共有できますからね」

住職と共に、お寺を支えてくれる人たちがの心遣いも忘れていない。「世間が変わっても、変わらない光源寺」と真貴子さんが話したように、コロナ禍だからといって、光源寺が止まることは無いのだ。

能美町高田。港町と山に囲まれたのどかな雲田気漂う高田地区を200年以上に渡って見守るお寺がある。高田交流プラザから真つすぐ山の方に上がっていくと見えるのが光源寺だ。コロナ禍前まで開催されていた人気の催し物『えたじま手づくり市』の舞台でもあることで有名だろう。今回は、そんな手づくり市の代表でもある海谷真貴子さんにお話を伺った。

ただ「賑やかに、楽しく」  
ではない手づくり市

「暑いでしょ。手作りですが、良かったらどうぞ」と、手づくりの梅ジュースと共にとびっきりの笑顔で出迎えてくれた真貴子さんは熊本県のご出身。2000年に住職である海谷真之さんと結婚し、光源寺に嫁いできた。「実は、私はお寺の娘なんです。小さい時からお寺に嫁きたいということも無くはなかったけど、進む道がお寺から遠ざかっていたので、まさかお寺に嫁ぐとは思っていませんでした(笑)」江田島市に来たのは約20年前。ご門徒さんが暖かく迎え入れてくれたから今の自分があるんです、と笑顔で話してくれる真貴子さんは、温かく明るいパワーでみなぎっている。



丁寧に手入れされたお庭は、写真スポットとしてもおすすめ。緑に囲まれ、癒しの時間を是非。(※お庭に入る際はお声がけください)

普段はお朝事に参り、二人のお子さんのお母さん業をしながら、週に3〜4日音楽教室の先生、時には二湖奏者として活躍している真貴子さん。たくさん顔をもちながらも、常に住職を支え、お寺のことを考え、様々な挑戦の中で未だ見聞新たなご縁に期待を寄せているという。「基本的に、私は裏方。住職と一緒に考え、悩み、楽しみながら活動をしています。予定が合えば、二人でイベントにも参加しますよ！お寺でやりたいことをやって：つまり、私は楽しんでる。自分の好きなことをできる環境を提供してくれる住職やご門徒さん、支えてくれるすべての人々に感謝しています」

インタビューの時間はあっという間に1時間を超え、最初に出してもらった梅ジュースも気づけばお代わりしていた。「GoONだけに、『感謝』を感じられる寺に：なんてね(笑)」と茶目つ気たつぷりにお話ししてくれた真貴子さんの優しい笑顔にも是非、一度会いに行ってみよう。



高田の風物詩とも言える『えたじま手づくり市』の様子。開催を心待ちにしているファンがたくさんいます。

浄土真宗本願寺派 光源寺  
江田島市能美町高田 3093-1  
☎(0823)45-2422  
詳細はHPから▶▶▶



(写真上)200年以上大切に受け継がれてきた本堂。(写真左)「高田小学校 発祥の地」でもある光源寺。寺子屋体験も行っています。(写真右)本堂の前で綺麗に咲いていたサルスベリ。高田の町を見渡せる境内も所満載です!